

平和祈念事業特別基金による労苦継承事業の現状

平成20年4月8日

(独) 平和祈念事業特別基金

所蔵資料の状況①

所蔵資料総数 約3万件 (H20.3月末)

実物資料約 1 万 7 千件 図書約 1 万 2 千件 映像資料約300件

その他展示のための装置 (模型・ジオラマ、年表、各種パネルなど)

所蔵資料の内容

- 臨時召集令状、引揚・復員証明書
- 軍帽・軍靴、抑留中の外とう、引揚げ中の生活用品
- 従軍カメラマンによる写真、抑留生活を描いた絵画
- 『満鉄調査月報』 (全48巻)、抑留者による建設作業の映像資料 など

所蔵資料の例



臨時召集令状(赤紙)

全国に10枚程度しか残っていないものの1枚



袖なし外とう

酷寒のシベリアで飢えに耐えかね、ソ連人労働者の黒パンと袖を交換したもの



手作りワンピース

引揚げが決まり、亡くなった赤ん坊のおむつで作ったもの

所蔵資料の状況②

外国資料

ロシアの公文書館等の資料を調査。これまで、強制抑留に係る公文書、収容所の衛生状態などに関する資料を収集。

抑留者の労苦の実態を示す資料を多数保管している数少ない資料館。



「スターリン文書」

日本人抑留者500,000名の収容・労働利用について決議したもの

所蔵資料の保管方法

- 美術品保管用の定温・定湿の倉庫で保管。
- 紙・布・木・金属・皮革類には、くん蒸処理。
- 写真資料は外気から遮へい。
- 稀少性の高い資料については、化学的な劣化防止措置。

平和祈念展示資料館の概要①

施設の概要

目 的 : 恩給欠格者、戦後強制抑留者、引揚者の方々の労苦について国民のより一層の理解を深め、次の世代へ語り継いでいくこと。

所在地等 : 東京都新宿区 新宿住友ビル48階（約700㎡）

開 館 日 : 平成12年11月30日

入場者数 : 18年度 約4万5千人（月平均約3,700人）

19年度 約3万6千人（月平均約3,600人）

（移設のため2か月休館）

※ 直近3か月間の入場者数は、前年比約3割増

平和祈念展示資料館の概要②

展示資料数、展示資料

- | | |
|----------------------------|------|
| ○ 当時の資料・ジオラマ（入営列車・収容所・引揚船） | 231点 |
| ○ 年表・地図・証言・絵画・写真・映像資料等 | 199点 |
| 合計 | 430点 |



軍服・軍靴等の展示の様子



収容所のジオラマ



引揚船のジオラマ

平和祈念展示資料館の概要③

効果的展示のための工夫

体験者から子供へ、そして孫へ

～ 3世代を視野に入れた「理解度」を考えた展示～

- 立体的な視点でイメージのつかみやすい展示（ジオラマ・模型等）
- 語り部の配置（23名：H20.3月末）
資料館に常駐し、来訪者に説明。
- 「語り継ぐ広場」の設置
見て感じて触れる体験展示、体験者の証言コーナー、ビデオシアター、クイズ、図書閲覧、映像・情報検索

平和祈念展示資料館の反響

- 「よかった」との評価が約 8 割（アンケート調査 4 分類による）
- 「当時の実物資料」への評価が最も高い。
- 学校の授業、修学旅行、大学のゼミでも利用。

[最近のアンケート結果から]

- ・ 「実際に使っていた道具や書類、衣類を見ることでリアルに感じた。本や教科書を読むのとは違って、すごく心にくる。」（10代女性）
- ・ 「戦争を語りつぐ人がいなくなるとよいです。」（10代女性）
- ・ 「当時の様子、大変さがよくわかる。現代の若者達はこういったことを見た方が良いと思う。」（20代男性）
- ・ 「若い人が多く来ていたのでわかりやすい内容を続けてほしい。」（30代女性）
- ・ 「いつまでも残して欲しい。子どもたちも連れてきます。」（40代女性）
- ・ 「亡くなった父がシベリアよりの引揚者だったため、知りたいこともたくさんあり伺ったが、大事なことを再確認させられた。」（50代男性）
- ・ 「大変内容のある展示物が多く、その悲惨さをより感じた。」（60代男性）
- ・ 「私は樺太からの引揚者で、展示を見て記憶が思い出され、涙があふれてきました。1人でも多くの方が資料館に来て、ご覧になってください。」（70代男性）

所蔵資料に関連する取組①

平和祈念展・地方展示会等

関係者の労苦を次の世代に語り継ぐため、所蔵資料も活用した取組を全国各地で実施。

- 平和祈念展(東京)：毎年8月開催（H19：約1万2千人入場）
 - ・ 絵画や写真、実物資料の展示
 - ・ 体験者の証言テープやビデオ映像の上映
 - ・ 実体験を持つ著名人によるトークショーの実施
- 地方展示会：全国各地で地元自治体や関係団体の協力を得て開催
（H19：全国14か所、約1万4千人入場）

実物資料等の展示に加え、開催地の郷土コーナーを設け、戦争当時の県内の事情が分かる資料を展示。
- 特別企画展：資料館において開催（H20.2.19～3.16 約5千人入場）

新規に寄贈を受けた実物資料等を展示。
- 関係資料館等からの要請に応じて、所蔵資料を貸し出し。

所蔵資料に関連する取組②

平和祈念フォーラム

「戦争体験の労苦、平和への想いを次世代へ語り継ぐ」をテーマに開催。

- ・ 所蔵している映像の上映や、平和基金発行の体験記『平和の礎』の朗読
- ・ 引揚げ体験をもつ著名人などによる労苦の体験談話

労苦を継承する資料の出版

○ 『平和の礎』

体験者の手記や聞き取りを基に、関係者の戦争労苦の体験記を作成。全国の公立図書館等に配布。資料館でも閲覧可。

○ 『戦後強制抑留史』

戦後強制抑留について、これまでその全体像を完全に網羅した記録、出版物が存在しなかった中で、平和基金において体系的に網羅した抑留史を編纂。全国の大学図書館等に配布。資料館でも閲覧可。

○ 引揚げを題材にした漫画冊子

全国の小・中・高図書館、公立図書館等に配布。資料館でも閲覧可。

各種の催し等

語り継ぐ集い

- 関係団体の協力を得て、戦争体験の労苦を語り継ぐ集いを全国各地で開催。(H19:21か所、計23回)

語り部の派遣

- 資料館の語り部を小学校に派遣し、児童・保護者に当時の悲慘な体験を語ってもらい、平和の尊さを考える貴重な機会を提供。
(H16～19:延べ42校)

校内放送番組制作コンクール

- 次代を担う全国の高校生を対象に、戦争体験の労苦をテーマとした校内放送番組制作コンクールを開催(H19:参加校24校、30作品)。
- 優秀作品等は、平和祈念展示資料館のビデオシアター、平和祈念フォーラム等において活用。

その他

- シベリア慰霊訪問等への助成。